

CSS「ワクワク大作戦！」 の3つのツール

①天国・未来からの挑戦！

今季・今月・今週・今日、何をすべきか、
ロードマップ作り

保護者会であるお父さんから、「前号のニュースレターで、ロードマップ検討中と書かれてあって、何だろう？稲葉さんのマラソン関連の話かな？と思ってました。今日の説明でわかりました」とコメントいただきました(^^)。

聖書は現状であくせくすることなく、天国に行く、未来からスタートした発想を示しています。「あなたの信じる通りになるように」(マタイ8；13)と、まず先に未来を信じることを命じます。好き勝手な自分の欲望を満たすための未来ではないですが、まず信仰です。

また、しっかりと計画を立てて物事を行う重要性について、「腰をすえて考える」(ルカ14：28)と書かれています。「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めよう」(ルカ14：27～32)。

こうした未来完了形の志向の中で、まず天国、そして職業を始め、社会でどう生き、どう証していくか、祈り求めます。そして、進路について、2年後、1年後、3ヶ月後、1ヶ月後、1週間後、どのように進んでいくか、「腰をすえ」、「信仰」を持って、計画を立てるという案です。聖霊の力をいただきながら実践し、また、神様の導きを確認し、フレキシブルに軌道修正する案です。親子が中心で自走していき、CSSが必要な皆さんに、伴走者

としてフォローする予定です。また、勉強中、わからない問題等に、CSSの教師が対応します。でも基本は親子です。

計画を立てても続かないというケースも出てくると思います。時々に応じて、計画に無理の無いように、フレキシブルに調整しながら、でも、最後のゴール、天国、強い3つの目的を見つめつつ、また、「腰をすえて考えよ」という聖書のみ言葉に忠実に、実行する力を求め、一步一步、共に歩んでいければと思います。

②今の実力を知るチェックテストの必要性 (中学生)

CSSでは、数学については、和田秀樹氏が監修する『絶対基礎力』をつける勉強法』に掲載されているチェックテストを用い、基礎力を診断。あとは、毎週、子どもたちのペースに合ったオリジナルのチェック問題で、理解度をチェックし、家庭での学習の到達度を診断・フォローすることにしました。例えて言うなら、自宅でのピアノの練習と週1回のレッスンで先生からチェックと指導を受けるような関係、と考えれば、わかりやすいかもしれません。ポイントは家での練習(学習)にあります。全国の皆さんの場合、毎週のテストは、それぞれ良いと思う教材を活かしては、と思います。フォローの必要な皆さんにはCSSファミランコース(以前は、通信制と呼んでいましたが、親子走が基本ということで、ファミランという名前にしました)もあります。

ホームスクーラーの場合は、良い意味で、のびのび育っています。その一方、特に時間制限のあるテストには慣れてない面もあると思います。また、「問題集を終えた」「わかった」と思える段階で終わっていて、5回、10回の復習の徹底が足りないせいもあるかもしれません。CSSの中高生のチェックテストの結果は、残念ながら、中学校1年生、あるいは、小学生に戻る必要ありとの結果が多数ありました。

でも、これも良いことです。つまり、戻って始めればよいからです。また、ホームスクーラーの場合、神様や親の愛を実感していて、良い意味で、セルフイメージが高い子どもが多いのですが、勉強面に関しては、理由なき自信になっているケースもあり、試験結果の低さを早めに知ることは、謙遜に現実を知るためにも、大きなプラスです。

それで落ち込む必要はまったくありません。謙虚に受け止め、戻るべきところに戻って再スタートすればいいだけです。ホームスクーラーのメリットに、真面目で、素直で、努力を惜しまない特徴もありますので、あとは目的を明確にし、できるステップに戻って、短時間で集中しながら、聖霊の力で親子で進んでいけばよいと思います。

チェックテストの結果も加味しながら、ロードマップを作成し、そこから、日々の家庭での親子学習が始まり、また CSS に来て（通信制の場合は、メールで送られたチェックテストで）次のテストを行って、進ちよく状況を確認し、強いところ、弱いところを補強しつつ、可視化された状況を親子で確認しながら、前進していくサイクルです。

チェックテストは、成績をつけるための試験ではなく、達成度の確認のための試験なので、試験勉強はいりません。結果が良くても悪くても、一喜一憂する必要はなく、前向きに用いていくためのだけの資料で、有効利用すればいいだけの存在です。

③基礎力重視の学習法のヒント提供と勉強サポート（小学生は聖書・漢字 / 読書・四則計算・英語（GS）で徹底的に基礎固め！ 中高生は聖書・伝道・英語（多読）・数学（体系数学）等、取り組み例の紹介）

基礎力重視は、上記の通り、評判の良い、どの研究本にも書かれてあると言っても過言ではないと思います。今、小学生の子どもさんを育てているホームスクーリング家庭には、朗報です。次男のジョセフ（7）を見ていても、とりあえず、四則計算で大丈夫と確認できると、まずホッとします。基礎力として、漢字も大切ということで、1年生に戻って、やり直すことにしました。ただの書き取りではなく、からだ関係とか、生き物関係とか、意味と合わせて覚える『出口先生の頭がよくなるかん字』をしたら、面白がってやっています。中高生も上記の通り、最初に戻ればよいということで、CSS の子どもたちも張り切ってやっています。

英語については、GrapeSEED を真面目に継続してきた子どもたちは、英語を恐れる思いがなく、英語を英語で考える英語脳が育っている結果が CSS の子どもたちに現れていました。ただ、GrapeSEED は、マニュアル通り、完璧を目指し過ぎると、続けにくく途中で断念等のリスクもあります。そこで、基本を大切にしつつも、それぞ

れオリジナルで取り組むフレキシブルさも必要なようです。このあたり、今回の伊澤聡一郎さん & 恵美さんの分科会で証しがありますので、参考にしてくださいと思います。

CSS で見出した中高生用の英数対策は「体系数学」「英語多読法」等があります。「体系数学」は、中間一貫教育校でよく採用されている数研出版のカリキュラムで、学年に縛られず、「方程式」（中1）、「不等式」（高1）と、自然な理解の流れを重視して編纂され、ホームスクーラーには取り組みやすいのではと思われました。

英語については、4歳～小学生は、GrapeSEED の取り組みで母語として英語を学び、ヒアリング対策や会話力等を進めつつ、「多読法」で長文読解等に備えていく作戦です。「多読法」とは、『文書を分析しないで、大意を把握する読書法のこと。楽しくスラスラ読む』（SSS 英語多読研究会より）との方法です。こうした学習法は、聖書と違い、「完璧に正しい」とか、「全員に当てはまる」「これしかない！」というものではありません。ただホームスクーラーの環境を考えると、効果的と思い、選択しました。

ほ